

メイドインアキタ

自動車産業振興に挑む

Made in Akita

改善MAP

自動変速機（AT）部品を生産する大橋鉄工秋田（秋田県横手市）。動力を使わない「からくり」による小さな仕掛けが大きな改善に役立っている。

その② 創意工夫

1回のストロークで複数の加工処理を行う多段プレス機。箱から材料を取り出し、機械に備え付ける工程がある。作業者は、身長180センチの男性や150センチの女性などさまざま。

そこで、考案されたのが

可変組み立て式の材料箱置き場。作業者の動きの負担を減らすため、材料箱を置く台を最適な高さ調節できるようにした。

こうした日々の改善業務について、いつ誰が行った

っている。付箋には改善を提案した担当者名や改善内容がびっしり書き込んである。日々更新される、モノづくりの教科書だ。改善MAPを考案した管理課の照井雄太氏は「仕事の見える化に初めて取り組んだ。班长やメンバーの協力で作成できた」と話す。北名古屋市の大橋鉄工本社で取り組む「カイゼン」の芽が、秋田でも着実に育っている。

領域を拡大へ

車載・電子部品用の各種

課題は連携・協業による底上げ

かを可視化したのが「改善MAP」。工場内にある手

作りの工場レイアウト図には、エリアごとに付箋が貼

金属プレス部品を生産する東京端一（秋田県大仙市）。複雑形状プレス部品のテー

ピング加工を開発するな

現地に根差したモノづくりを推進してきた。

効率的な工場設備も自社で開発。インサート成形さ

け、提案力のある技術集団を自指す」と意気込む。

秋田県は、電子部品・デバイス産業が発展してきた

見える化でカイゼン



東京端一で稼働する部品収納装置。通称は「観覧車」

ど、技術力の高さに定評がある。1968年に秋田事業所を立ち上げて以来、約50年間、

「難しい仕事に挑戦し続

経緯で、小型精密加工が得意なメーカーが集積している。一方で、自動車産業向けの低コスト化技術や大量生産への備えが十分でないことが課題だ。県産業技術センターの鎌田悟所長は「複数企業の連携による製品化や、提

案できる部品の領域を拡大していく姿勢が必要」と指摘する。

光通信用コネクタ、サイファイア基板、ターボチャージャー用シャフト生産など、業界トップクラスのシェアを誇る県内企業は少なくない。個別企業による加工技術の高度化に加え、他社との連携、協業による競争力の底上げが自動車産業振興に向けた大きな課題となりそうだ。

